

### 第39回 長野県幼児教育研究大会分科会 実施報告書

		作成日	27年 11月 25日
分科会	第1分科会 テーマ「地域・家庭支援・保育者とのかかわり」 ～共感し合える保育者と保護者の関係作り～		
分科会 日時	平成27年10月31日（土曜日）	13時00分	～ 16時00分
研修会場	飯田女子短期大学（北館1階 第8教室）	参加人数	117名
助言者名 (所属等含む)	西山 薫 先生（清泉女学院短期大学副学長 幼児教育科学科長）		
担当者	運営委員	和田 典善	
	責任者	清水 幸子	嘉部 敏枝
	司会者	小林 裕子	
	提案者	小林 可那	小林 香保里
	記録者	小山 和美	藤原 杏奈
研修会 概要	<p>分科会テーマを元に、二園の取り組みを見た。松本光明幼稚園では、子育てに対して不安を抱えている親が多く、保護者が子どもの成長を喜び、自信を持って子育て出来るような支援の仕方を職員間で話し合った。保護者への伝え方について考えていき、クラス便りの改善や、ポートレートによる視覚からの情報発信を主に活用していった。クラス便りでは、行事後すぐに発行したことで、子どもや保護者が鮮明に覚えている中振り返ることができ、ポートレートでは、子どもたちが夢中になっている写真や子どもの言葉を吹き出しに使い、活動内容をより理解しやすいようにした。結果、保護者に園生活での内容が伝わりやすくなり、子どもの話に耳を傾けることが増え、互いに「おもしろい」を共感しやすくなった。園側の受け止めとして、子どもの気持ちが分かるようになったことで子育てに満足感を持ち、前向きに子育てをしようという気持ちになれたように感じたため、今後も「伝わる」工夫をしていきたいとのことだった。古里中央幼稚園では、アンケートや連絡ノート、普段の会話を元に保護者の要望をまとめていき、「保育者と保護者が子どもを中心に置き、対等に助け合いながら支え合う関係＝パートナーシップ」を築けるような取り組みを考えていった。その中でも、保護者の保育参加が主な取り組みとなっていた。保護者が、お父さん先生・お母さん先生となって、一日園生活を体験し、必要に応じて保育者の補助に入ってもらおうという流れである。保護者も実際に体験する事で、子どもたちの気持ちや園生活の流れ、保育者の援助の意図などを理解することができた。また、保育参加を終えた後には、保護者から子ども宛に手紙を書いてもらい、子どもたちも喜びや満足感を得られるようにした。この体験を通して保護者は、保育者の保育から子育てのヒントや自身の子育てについて振り返ることができ、家庭内での子どもの会話も増え、子どもとの関わりを深める事にも繋がった。保育者側も保護者の声から自身の保育の質の向上へと繋がっていき、保護者の新たな一面を知ることで、保護者理解を深めることができた。今後は、就労状況や子育て事情に合わせて部分的な保育参加も出来るように考慮していきたいとのことだった。二園の発表を終えて、助言者の西山先生は、国公立幼稚園の中で私立幼稚園では、園からの情報発信が少ないこと、保護者の子育ての情報収集は雑誌やインターネットであり、相談相手がないというベネッセの調査結果や、共通理解をし合える関係になることの重要性を訴えていた。そこで、保護者の不安や悩みに沿ってどのような伝え方をしているか、保育参加は可能であるかを中心にグループ討議するように促した。</p>		

助言者指導	<p>幼稚園の保護者支援の目的は、子どもの健全な発達を目指して、親が主体的に子育てに向き合う事を支援すること。主体性には二面性があり、〈他者とは独立した内面的側面〉〈子どもの主体性を認めながら、お互いの関係性に折り合いをつける〉両者がバランスよく釣り合い健全な主体性になる。</p> <p>1) 「見える」化と「主体的な子育て」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の保育情報の「見える化」によって、日常的な保育活動への理解が深まる。</li> <li>・伝えたようで伝わっていない「保育の意図やねらい」を「日常的な子どもの姿」を通じて伝える。</li> <li>・園が「伝えたい情報」とともに保護者が「知りたい情報」を伝えることで、安心感が増す。</li> <li>・双方向・多方向の情報提供によって子育ての視野が広がり、自己肯定感が高まる。</li> </ul> <p>2) 保護者「保育参加」のねらいと保護者支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の子育ての「視野」を広げる。 ・保護者の子育て観、親としての姿勢を振り返る。</li> <li>・普段の保育の中に自然に入ってもらおう工夫をし、保育者の保育技能から親としての技能を学ぶ。</li> <li>・園のいろいろな子を知り、子どもへの共感を深め、「みんなの幼稚園」という意識を持つ</li> <li>・多様な親の存在を知り、保護者同士の「真剣なつながり」をつくるきっかけとなる。</li> </ul> <p>《子どもを取り巻く環境の変化を踏まえ、主体的な子育てのための保護者支援の留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の受け止め方や意識の変化を敏感に感じ取り、受容する姿勢の必要性。</li> <li>・子育てへの前向きな姿勢を刺激するような情報の伝え方や共有の方法の工夫や配慮。</li> </ul> <p>エピソード化：事実 + 保育者の解釈・子どもの成長の質的变化・子どもとの接し方のヒント → 子育ての不安低減・子どもの小さな変化を見逃さない肯定的な子育て意識 → 子ども理解の深まり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者同士の子育てをめぐる思い・意識の共有や保護者自身が成長するためのきっかけの提供。</li> </ul>
成果と課題	<p>親と子、保育者が共感し合い、互いに育ち合える「環境」と「支援」について多くの学びがあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案園の発表は、保育者と保護者が子どもの成長を共に願い喜び、子育てについて一緒に考えていくための取り組みを、参加者各々が振り返るきっかけになった。より良く伝えるために写真やポートレートの活用、普段のお便りの見直しや保育参加の実践は、それらを通じた保護者の声や姿の捉えから、保護者の保育の理解につながり家庭支援へとつながることを学んだ。</li> <li>・グループ討議では、各園の様子が聞け、参考になり、様々な角度からの意見に良い刺激を受けた。日頃の悩みや課題も共有でき、考え合い、深めていける時間だった。</li> <li>・保護者のニーズや支援は、時代に合わせてどんどん変わっていくことを知り、今求められている保護者との関わりや、保護者に伝えるということのねらいを学んだ。「親と子が共に育つ」という観点から、“親の子育てに対する不安やストレスを解消し、その喜びや生きがいを取り戻して、子どものより良い育ちを実現する方向となるような子育て支援が必要なことを学んだ。</li> </ul> <p>《課題》保育者が保護者と心を通わせ、温かな子育て支援をしていくためには、園側からの情報提供を増やし、共通理解の下、互いに支え合う関係になれるよう取り組む必要がある。</p>
配布資料	<p>助言者資料：西山 薫 先生</p> <p>提案者資料：松本光明幼稚園・古里中央幼稚園</p>
使用機器等	<p>パソコン・プロジェクター・マイク</p>
記録写真	<p>有 無</p>

### 第39回 長野県幼児教育研究大会分科会 実施報告書

作成日

27年 11 月 26日

分科会	第2分科会 テーマ「すべての子どもを運動好きにするために」 ～長野県版運動プログラムを使って～		
分科会 日時	平成27年10月31日（土曜日）	13時00分	～ 16時00分
研修会場	飯田女子短期大学（保健養護棟 視聴覚）室	参加人数	87名
助言者名 (所属等含む)	柳澤 秋孝先生（松本短期大学名誉教授）、勝山 翔太先生（飯田女子短期大学助教）		
担当者	運営委員 原田 誠龍先生(認定こども園ひかり園)	研究委員 小林 慶二先生（俊英幼稚園）	
	責任者 西澤 範子先生（あかしや幼稚園）	司会者 大日向 光先生（認定こども園朝陽学園）	
	提案者 綿貫 みづ希先生（中野中央幼稚園）		
	記録者 市村 咲子先生（あかしや幼稚園）	星 聡美（俊英幼稚園）	
研修会 概要	<p>昨今、子どもが体を動かして遊ぶ機会が減ってきている。幼稚園の生活の中でも、すぐに「疲れた」と言う子や、体のバランスの悪さから、姿勢の維持が難しいと感じる子がいる。</p> <p>また、自ら進んで運動したがる子どもたちの姿がある。それらの要因として、</p> <p>①積極的に体を動かして遊べる場や遊ぶ機会の減少                      ②他の遊びの増加</p> <p>③保護者の意識の変化(安全に対する配慮から)があるのではないかと。現代の子どもたちは、運動嫌いなのではなく、運動をしにくい環境に置かれているのではないかと考えられる。</p> <p>体を動かして遊ぶこと（運動）に興味を持つためには、適切な運動機会と環境の提供が必要であることから、長野県版運動プログラム（柳澤運動プログラム）について概要を知ると共に、中野中央幼稚園の実践発表から、プログラムの効果や、今後幼稚園教育の中でどのように取り入れていけばよいか、助言者の先生よりご指導をいただいた。</p>		
	●助言者 勝山翔太先生より 長野県版運動プログラムの概要説明		
	●中野中央幼稚園 綿貫 みづ希先生より、研究発表		
	●助言者 柳澤 秋孝先生より 柳澤運動プログラムの内容について、解説と過去のプログラム実践例の報告、成果の説明、心身の発達面からみたプログラムの必要性をお話していただいた。		
	質疑応答		
	Q) 中野中央幼稚園ではどのような効果が出ているか		
	A) 静と動の切り替えができるようになった。姿勢の維持、集中力がついたことに効果を感じる		

助言者指導	<勝山 翔太先生>
	長野県版運動プログラム＝柳澤運動プログラム
	・達成感、満足感、楽しさがあることによって運動好きになる。
	・どのように展開し、取り入れるのか。意識せずに体を動かすことを習慣づける（遊び）
	<b>運動プログラムの基本</b>
	・体を支える（支持力）・跳ぶ、跳ねる（跳躍力）・ぶら下がり（懸垂力）
	・幼児期の支援体制が重要である。（就学前に…楽しい→できた またやりたい！という体験）
	・好き、嫌い、得意、不得意の格差を縮小する必要がある。
	・ <b>達成感・満足感</b> → <b>挑戦・意欲</b> → <b>創造・発展・自立</b>
	・幼稚園、保育園で基礎力を身につけ、小学校で発展させ広げていく
<柳澤 秋孝先生>	
・平成になり、運動量が激減している。（大人が楽な環境で子どもも生活している。）	
→体を動かす楽しさをすべての子どもに、体を動かす環境を作り運動嫌いな子が好きになるように。	
・できる、できないがはっきりする動きにより、できない子は負の感情（苦手・できない・恥ずかしいみじめ）を持ってしまう。→遊びの中で楽しみながら、気がつけば、逆上がり・なわとび・とび箱ができるようになっていくことを目指す（できるだけ好きになるのではなく、苦手な子が進んで体を動かす環境を作る。）	
・日常の中に、非日常の動きを取り入れて動ける体をつくる必要がある。	
・体力と、学力、コミュニケーション力、心の育ちは比例する。	
→動ける体を作ることで、心の育ちや学力向上につながる。	
成果と課題	<中野中央幼稚園の研究発表の概要> 長野県版運動プログラムの実践
	◎運動に興味を持つために
	1) 練習（繰り返し・単調・指示・やらされた感）をなくし、楽しい事にする。
	・長野県版運動プログラムの導入で、楽しみながら“運動できる体づくり”ができてきた。
	2) 毎日行う⇒子どもたちに抵抗なく、保育活動に運動を取り入れられるようになった。
	・自由遊びの時間に、園庭から教室まで“まねっこマラソン”を取り入れた。
	・トイレへの移動時、クマさん歩きやカンガルー跳びを取り入れた。
	3) 楽しみを持つ…リンゴになって鉄棒にぶら下がる（ワニやゾウに食べられないように）
	4) “孤立感を持たせない”という問題への取り組み。…友だちに応援してもらう⇒やる気、満足感、充実感
	<b>今後の課題</b> …義務感から主体的な活動。・完全な自由さから選択。・“目的”を持つ。“できる”という手応えを持つ。
◎子どもたちの健やかな成長のため、文部科学省 幼児期運動指針・長野県版運動プログラムへの理解を深める。	
◎教師の配慮と工夫を通して、達成感、成功体験をどれだけ体験させてあげられるか。	
“もっとやりたい”にどれだけ繋げていけるかが今後の課題である。	
配布資料	合計 3部 助言者の先生 『第2分科会 資料』 1部
	中野中央幼稚園『平成27年度第2分科会 研究発表資料』『子ども達の生活習慣と、子ども達の休日の外遊びについて』計2部
使用機器等	なし
記録写真	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>